

大田原市女性の海外研修事業

海外へ羽ばたく女性市民を目指して

事業の経緯

市では、広く国際的視野を持ち地域に寄与する人材の育成を図るため、「大田原市女性の海外研修事業」を実施しています。

平成13年、この事業は、市女性団体連絡協議会や多くの女性の熱意と要望に応えるかたちで、一回目の事業として10人の女性市民をドイツ・フランスへ派遣したのが始まりです。「女性自身が変わって家族が変わる、地域が、まちが…」地域にしっかりと根をはった女性たちが変わることが、重要であると期待されました。また、何より事業を続けることに意味があるはずということ、市は「ひとづくり」の大切な事業として、この10年の時代の変化をとらえながら多くの研修団員を支援してきました。

研修後の活動・成果

研修から多くの学びが…

現在、研修修了者は90人となり、強い絆が生まれ、さまざまな団体・地域で活動の場を広げています。

その一例に、デイサービスの施設を立ち上げた女性があります。福祉施設を訪問し車椅子磨きを行うグループや、道路の里親としてまちづくりの一端に参画するグループもいます。今、自分に何ができるのだろうかと考え、そしてできることから始め

る、その一歩を踏み出す勇気が出たといえます。そして今回の東日本大震災。避難所で大勢の学生や地域の方々がボランティアとして走り回る中に、研修に参加した方々の姿を見つめました。

研修成果が見えにくいといわれることもありました。自らができることをする、という心構えで、「一人ひとりが主役となる住みよいまちをおたわら」づくりのため地域にかかわっています。

共に成長する家族

そして、そのようなお母さんの背中を見つめて育つ家族の方たちが、互いへの尊重・感謝・愛情をうまく表現できる小さな共同参画社会になり始めています。

第9回研修団員の声

研修団員の

磯きくいさんは、「思い切った伸ばした手の向こうには、みなぎるエネルギーを持つ仲間たちの大きな輪ができました。そのエネルギーはもう一方の手の向こう側にいる誰かに届けることができる



ロンドンの保育学校にて

ず」と考え行動するようになったといえます。

農業を営む石崎光江さんは、「自分の仕事にプライドを持っている」と話してくれたロンドンの保育学校長のことばに心を動かされ、フランスでは毅然とした態度で活躍する日本人女性に出会い、日本人として大きな誇りを感じたそうです。

毎回、参加した皆さんからは、それぞれの留守家族に成長がみられたとの感想が寄せられています。

第10回大田原市女性の海外研修事業参加者を募集します

- 派遣先 フランス・スウエーデン
- 派遣期間 10月4日(火)～10月13日(木)までの10日間
- 派遣人員 10名
- 研修内容
 - ・事前研修
 - ・第1回7月、第2回8月(泊2日の宿泊研修)、第3回9月
 - ・現地研修 訪問国における施設訪問研修(女性、環境、福祉、教育関連)やホームステイなど
 - ・事後研修 報告会、報告書作成など
- 研修費 本人負担 20万円
- 募集期間 5月2日(月)～6月3日(金)
- 応募資格 大田原市民で昭和31年4月2日から昭和61年4月1日生まれの女性。ただし、学生および5年以内に公費により海外研修に参加した方を除く。
- ・男女共同参画の推進を図るため積

フランス・カヴァイヨン市との交流

震災後の3月28日、日本を、そして大田原市を心配する心強い励ましの手紙が、遠くフランスのカヴァイヨン市から届きました。カヴァイヨン市は、海外研修団員たちが毎回表敬訪問をし、ホームステイ先として交流を深めているまちです。10年という積み重ねが、この力強い味方を海の向こうにも存在させています。

極的な地域活動をし、規律ある団体行動ができる方

●応募方法 研修参加申込書と小論文(800字程度、テーマ「研修成果を活動にどう生かしていきたいか」を添え、政策推進課に提出。)

※参加申込書は政策推進課にあります。また、市ホームページからダウンロードできます。

●選考 応募者の中から、小論文と面接により選考(選考日は6月下旬予定)

●申し込み・問い合わせ 政策推進課市民協働係
TEL (23) 1389

【お詫びと訂正】

おおたわら市男女共同参画広報紙「ばらんす」第30号(3月15日発行)4ページの「大田原市女性の海外研修」の写真の説明に誤りがありました。正しくは「バッキンガム宮殿の前」です。お詫びして訂正いたします。

問い合わせ

政策推進課市民協働係
TEL (23) 1389